

中期経営目標	短期経営目標	具体的な取組・方策	評価指標	実績値				評価 (自己評価の結果)	改善策
				令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度		
児童の学力の向上を図る。	①基礎基本の定着の徹底	①小学校低学年段階からの学ぶ喜びサポート校事業を活用して、「聞く・話す・読む・書く・計算する・推論する」等の力を高めるための個別指導の充実を図る。 ①「本時で身に付けるべき知識・技能」を明確に位置付け、児童と確実に共有することで、単元や学習のゴールへの意識を高める。	・単元テスト(国語・算数)の平均到達度	国語 82.8% 算数 82.6%	国語 83% 算数 83%	国語 84% 算数 84%	国語 85% 算数 85%	・「学ぶ喜びサポート校事業」の取組を全学年にわたって取り入れることで、児童の実態を把握するきっかけとなった。 ・単元テスト(国語・算数)の平均到達度は、国語が81.4%、算数が81.5%となり、国語・算数共、目標を達成することができなかった。	・「学ぶ喜びサポート校事業」で得た、「認知的能力」向上への取組を次年度も継続して実施し、組織的な指導に取り組む。 ・下学年や当該学年の「積み残し」による、基礎学力定着の難しさがあるため、児童の学力実態に応じた家庭学習に取り組みせたり、個別指導の時間を放課後に設けたりするなどの取組を行う。 ・伝え合う場を継続して確保するとともに、伝え合う際の相手意識や目的意識を明確に設定し、日常生活と関連させた課題について話し合わせるなど、児童にとって身近で活用しがいのある活動に取り組む。
	②思考、判断、表現力の向上	②各授業等で、「条件に合わせて書く」や「図に描いて説明する」など、自分の意見を表現したり、伝え合ったりする場を確保する。 ②「カリキュラム・マネジメント」を実施し、教科横断的なカリキュラム設計を行い、身に付けた知識・技能を活用して、試行錯誤できるような活動を実施する。	・校内合格証テスト(国語・算数)の1回目合格率	国語 59.7% 算数 72.8%	国語 60% 算数 73%	国語 65% 算数 74%	国語 70% 算数 75%	・校内合格証テスト(国語・算数)の前期合格率は、国語・算数ともに65%であった。また、後期合格率は、国語66%、算数75%の結果となり、国語、算数共目標値を上回った。長文読解については、まだまだ苦手な傾向がうかがえるが、到達度が10%以上アップしている学年もある。 ・標準学力調査では、活用問題の正答率の目標値を超えた学年は、国語1学年73.8、算数1学年70.0、4学年65.9、6学年59.5、理科6学年68.3であった。6学年においては、算数・理科共、江田島市の平均正答率を下回っていた。また、6学年が実施した全国学力・学習状況調査の平均正答率は、国語が73%、算数が61%であった。国語は江田島市・広島県の両方より上回っていたが、算数においては、江田島市・広島県の両方より下回っていた。	・活用力の向上には「問題への慣れ」と「読解の流暢性」が必要になる。各教科の単元末に、既習事項を活用する問題や課題を位置付けることで、活用問題に慣れさせるようにする。また、「読解の流暢性」には、語彙理解や音読技能の向上が必要になるため、MIMを使った語彙力強化や、記号を用いた「読み方」の習得等に取り組む。
	③学びに向かう姿勢の育成	③自主学習ノートコンテストを実施し、学習内容等を展示したり交流したりすることで、学習意欲や自己肯定感の向上を図る。 ③「PBL(プロジェクト型学習)」に関する研修を行い、探究的な学習を計画的に実施する。(各学年1単元開発)	・児童アンケートでの肯定的評価の割合 ・教師アンケートの記述分析	国語 63.1 算数 52.7 理科 54.5	国語 65 算数 55 理科 55	国語 68 算数 58 理科 58	国語 70 算数 60 理科 60	・標準学力調査では、活用問題の正答率の目標値を超えた学年は、国語1学年73.8、算数1学年70.0、4学年65.9、6学年59.5、理科6学年68.3であった。6学年においては、算数・理科共、江田島市の平均正答率を下回っていた。また、6学年が実施した全国学力・学習状況調査の平均正答率は、国語が73%、算数が61%であった。国語は江田島市・広島県の両方より上回っていたが、算数においては、江田島市・広島県の両方より下回っていた。 ・児童アンケートの学習計画に関する項目は、81%であった。また、学習調整に関する三項目は、89%以上を達成した。PBLや自主学習ノートコンテスト等を通して、主体性が高まってきているといえる。 ・PBLは各学年で実施し、「自分タイム」でも、児童主体のプロジェクトを組織的に実施した。 ・教員アンケートでは、児童実態によって難しさはあったものの、各学年で主体性を高める指導改善を行っていた。一方で、「振り返り」に関する活動について、「成果」や「課題」は捉えさせているが、「今後どうしたいか」までを捉えさせる意識が薄く、改善や意識づけが必要である。	・「選択」と「自己決定の場」をできるだけ多く設定するとともに、「集団の中で学ぶ」協働的な活動にも取り組むことで、児童の主体性向上を一層加速させる。 ・次年度以降も、児童の課題から学び始める「探究的な学び」の充実に取り組むとともに、「振り返り」を生かした課題作りにも取り組めるようにしたい。
児童の豊かな心を育成する。	・規範意識を向上させ、毎日を気持ちよく過ごす児童を育成する。	・自分は「時間を守る」「大きな声で返事・挨拶ができる」「整理整頓ができる」という自信をつけるために、評価をその都度していく。 ・児童が主体的に挨拶や掃除を進めていくことができるよう、委員会活動を充実させる。	学校アンケート ・児童アンケートでの肯定的評価の割合	時間を守る 93% 挨拶 94% 掃除 93%	時間を守る 90%以上 挨拶 90%以上 掃除 90%以上	時間を守る 90%以上 挨拶 90%以上 掃除 90%以上	時間を守る 90%以上 挨拶 90%以上 掃除 90%以上	・「時間を守る」に肯定的回答をした児童は、91%であった。 ・「挨拶をしている」に肯定的回答をした児童は、94%であった。 ・「すすんで掃除をしている」に肯定的回答をした児童は、91%であった。	・時間を意識させるためにタイマーを活用する。また、時間を守っていることを教職員全体で進んで肯定的評価する。
		・帰りの会等で整理整頓の時間を設定したり、学級活動等で、整理整頓に関する課題に取り組んだりする。		整理整頓 75%	整理整頓 77%	整理整頓 80%	整理整頓 80%	・「整理整頓ができる」に肯定的回答をした児童は、75%であった。	・来年度から、さらに児童が主体的に掃除に取り組むことができるように、縦割り班掃除を行うようにする。 ・手紙やプリントを連絡袋に入れることを全校で徹底させる。 ・帰りの会などで整理整頓をする時間を設ける。その際、今週はランドセル、来週はお道具箱などとピンポイントで整頓する物や場所を意識させるようにする。 ・ロッカー、机の中などの整理整頓の見本となる写真を各教室に掲示する。
		・学校・地域貢献活動を行う。		効力感 86%	効力感 85%以上	効力感 85%以上	効力感 85%以上	・『自分たちの学校は自分たちで創る』を意識して、学校生活を送っている」に肯定的回答をした5・6年児童は、86%であった。 ・8月、11月、12月のアダプト活動で学校の草取りや学校周辺のごみ拾いを通して、学校や地域のためにできることに取り組むことができた。	・来年度も委員会活動や地域貢献等を活性化していく。

<p>児童の体力向上を図る。</p>	<p>①上体起こし及び50m走の種目において、体力向上を図る。</p> <p>②健康体力を高めるための生活習慣の定着を図る。</p>	<p>①サーキット運動や体支持運動を積極的に取り入れ、体幹を鍛えるようにする。</p> <p>①児童が主体的に外遊びを楽しむことができ、「走る」機会を増やすことができるよう委員会活動を充実させる。</p> <p>②生活時間を意識させ、健康の保持増進のために生活調べを行う。(早寝、早起き、朝ごはん)</p>	<p>・新体力テスト・各学期の再計測の県平均を上回る割合</p> <p>・生活カード</p>	<p>上体起こし 33% 50m走 25% 運動好き 91%</p> <p>早寝 68.9% 早起き 67.5% 朝食 82%</p>	<p>上体起こし 60% 50m走 60% 運動好き 90%以上</p> <p>早寝 73% 早起き 70% 朝食 85%</p>	<p>上体起こし 65% 50m走 65% 運動好き 90%以上</p> <p>早寝 75% 早起き 73% 朝食 86%</p>	<p>上体起こし 70% 50m走 70% 運動好き 90%以上</p> <p>早寝 77% 早起き 75% 朝食 87%</p>	<p>・1回目の計測で、県平均を上回った割合は、「上体起こし」0%、「50m走」16%であった。</p> <p>・2回目の計測で、県平均を上回った割合は、「上体起こし」25%、「50m走」75%であった。</p> <p>・「運動が好き」と答えた児童は、91%であった。</p> <p>・「早寝」73%、「早起き」69%、「朝食」88%で目標値を達成することができた。</p>	<p>・児童の体力向上の意欲を高めるために、「上体起こし」と「50m走」の教員と体育委員の測定結果を掲示する。</p> <p>・体育の準備運動に上体起こしにつながる動きを取り入れる。</p> <p>・年度始めから、体幹を鍛える運動に反復して取り組むようにする。</p> <p>・学年に応じて、新体力テストへのモチベーションを高める工夫をする。</p> <p>・昨年度「早寝」の達成率が低かった学年に対して、「早寝」の良さについて個別に保健指導を行う。</p> <p>・生活カードの取り組み前に、各学級で個人目標を記入する時間を確保し、達成への意識を高める。その際、養護教諭が放送で、特に意識して取り組んでほしい点について話をする。</p> <p>・保護者への啓発を生活カードの案内文に入れる。</p>
<p>信頼される「わくわくする」学校となる。</p>	<p>①教職員による不祥事を0(ゼロ)にする。</p> <p>②業務改善を進める。</p> <p>③保護者が相談しやすい環境をつくり、学校満足度を向上させる。</p> <p>④地域や学校外の人材を活用した授業を設定する。</p>	<p>①月1回の服務研修の確実な実施と過去の事例と防止策を研修内容として取り入れる。</p> <p>②会議は内容を確認し、必ず始まりの時刻と終了の時刻を設定して行う。</p> <p>③定期的な「便り」の発行やHPの更新を行い、取組状況や児童の状況を発信する。</p> <p>④各学年で、地域・保護者連携を行い、地域や学校外の人材を活用した授業を行う。</p>	<p>・不適切事案の発生数</p> <p>・時間外での会議の回数</p> <p>・学校満足度 〔情報提供 教育活動〕</p> <p>・活用回数</p>	<p>0件</p> <p>0回</p> <p>92%</p> <p>全学年 21回</p>	<p>0件</p> <p>0回</p> <p>93%</p> <p>各学年 3回以上</p>	<p>0件</p> <p>0回</p> <p>93.5%</p> <p>各学年 3回以上</p>	<p>0件</p> <p>0回</p> <p>94%</p> <p>各学年 3回以上</p>	<p>・月1回の服務研修を月中行事で予定を立て、計画通り実施している。</p> <p>・会議はできるだけ精選し、時間内に終了した。終会やホワイトボード等を利用して周知している。</p> <p>・「学校だよりや学級通信、HP等で、子どもたちの様子がよく分かる」97% 「学校の教育に満足している」95%</p> <p>・1月末で、1年2回、2年2回、3年7回、4年16回、5年4回、6年7回 特別支援学級(知的)2回である。</p>	<p>・これまで通り、ヒヤリハット事案や、記者発表資料等を活用し、繰り返し研修を進めていく。</p> <p>・これまで通り、分掌部会で話し合ったものを企画委員会、終会で起案し、効率的に、必要以上に会議等の時間や回数を増やさないようにしていく。</p> <p>・HPの内容や更新について、ICT支援員の協力をえることができ、トラブルがほとんどなく発信することができた。来年度も、ICT支援員の配属をお願いしたい。</p> <p>・主に、生活科や総合的な学習の時間の中で、児童が主体的な学びを進めていくことができるよう、GTを活用した授業を展開するようにする。</p> <p>・体験活動前に、担任とGTが打ち合わせをしっかりと行うことで、効率よく活動を実施することができた。来年もこのことを生かしたい。</p> <p>・江田島市内の移動において、バスを無料で利用することができる(補助がある)ことが、校外学習を計画しやすいことに繋がっている。来年度も活用したい。</p>